投資ってなんだ!?

Vol. 24
神山流 経済ってなんだ!?
「マーケットの見方」あるいは「相場観」とは

アセットマネジメント(am)をムーヴ(move)する
amova
アモーヴァ・アセットマネジメント

KAMIYAMA Column

2025年9月1日　ご参考資料

チーフ・ストラテジスト　神山 直樹

「神山流」の経済の見方では、相場観は大事ではありません。長期投資で相場の上下動に一喜一憂することはないのです。株式市場の先行きを考えるなら、まずは投資の目的を明確にしましょう。

なによりも、投資の目的を見失わないように

投資の目的が、長期で増やしたいのか、1年後に1割儲けたいのか、1日で結果を出したいのか‥によって、見通しを立てる際の要因の重み付けと投資行動が異なります。現役世代が、引退後の「潤いのあるくらし」を目指すための長期投資ならば、トレンド(長期的な方向性)とそれを動かす要因を知っておけば十分でしょう。しかし、“趣味”としての投機ならば、サイクル(短期的な方向性)や経済データなどの結果に対する解釈も大事になることがあります。

世界株式への長期分散投資では、世界経済の成長と仕組みへの信頼と、「人は努力し工夫する」ので、世界のどこかで成功が続くことが確認できれば、サイクルの相場観は不要なのです。

要因ごとに市場が動く方向を考える

それでも、人は経済情勢から市場が動く方向を知りたいものです。株式市場では企業収益が大切ですが、後から結果として知ることになります。市場を動かす「経済」は、消費や設備投資、政府予算、貿易、インフレなどの要因が大切で、この裏側にあるお金の動きがポイントになります。つまり、中央銀行の金融政策、金利や為替の動向などが株式市場を動かす、ともいえるのです。

このほか、市場参加者の心理や見通し、社会の志向(ESGなど)、国際政治や地政学も市場を動かす要因となります。

重要性を知り重み付けすること:(売りか買いかで)行動が変わることも

もし「相場観」が必要であれば、目的に応じて要因を重み付けすることがポイントになります。短期の見通しでは市場心理の変化、長期では構造改革や技術革新が大事です。また「短期的に上がる」見通しでも、短期なら戻り売り、長期なら買い増しとなるケースがあり、目的によって投資行動が変わります。でも、長期投資ならば、相場観ではなく、いま起こっていることを整理しておけば十分と思うのです。

世界株価指数:MSCI ACワールド指数
※グラフ内の矢印はイメージです。 ※指数の著作権等の知的財産権その他一切の権利は、各指数の算出元または公表元に帰属します。

(信頼できると判断したデータをもとにアモーヴァ・アセットマネジメントが作成)
●上記は過去のものであり、将来を予測するものではありません。

アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社
2025年9月1日付で、日興アセットマネジメント株式会社から社名変更しました。

当資料は、アモーヴァ・アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。